



18,823人の母校



この3月、山門高等学校が650回目の同窓が果立ってゆきました。

福岡県立山門高等学校

同窓会だより

発行：山門高校同窓会
平成10年4月1日
事務局：山門高校内
TEL62-4105

「同窓会だより」発刊にあたって



山門高校同窓会会長
板橋元昭

山門高校同窓生の皆様には、国内は勿論のこと、世界の各地に於いてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、この度初の「同窓会だより」を発行するにあたり、会長として一言ご挨拶申し上げたいと存じます。

ご承知のように、私達の母校山門高校は、その前身である瀬高実業補習学校が創立されて以来、今年で八十六年の歴史を有することになりました。そして学び舎を共にした同窓生の数は今年三月の卒業生三百十一名の入会により一八八二三名を数えております。山門高校同窓会の発会の時期は定かには存じませんが、私と同窓会に関わるようになった昭和三十八年頃は旧制山門高等女学校の

大正十一年三月卒で当時母校の茶道の先生でありました野口勝代氏が会長をお務めでした。そして同窓会のお世話は専ら、歴史の教師であられ

た塚本祐吉先生が一手に引き受けていただいております。

その後、昭和四十七年九月の母校創立六十周年の記念総会を機に、長年ご活躍いただいた野口会長が勇退をされた後を受けて、昭和二十三年の学制改革後男女共学の山門高等学校第一回の卒業生の中から角博介会長が誕生、爾来七条徳八郎会長、富安昌雄会長と引き継がれて今日に至っております。その間母校創立六十周年の記念総会に於いて、満四十歳を迎えた卒業年次の同窓生が担当学年として総会のお世話をすることが決議され、昭和四十九年の総会は、男女共学の山門高等学校第一回卒業生の手で開催されました。

その後、担当学年の献身的な努力と同窓生の皆様のご理解とご協力のお陰で、年を追うごとに参加者も増え、昭和五十六年からは会場を従来の食堂から体育館に替えて開催されることとなり、今日では優に一千名を超える参加者が集い盛大にそしてにぎやかに行われるようになりました。

もとより、同窓会は同窓生相互の親睦・福祉・情報交換等の事業や、母校職員の学術研究の奨励、そして生徒の奨学に関する事業等を行うことを目的としたものでありますので私達役員一同はその趣旨に添べく同窓会より良い在り方を模索しつつ

〔同窓会理事名簿〕
○会長 板橋元昭
○副会長 野崎重信
○理事 板橋元昭

(校内)

◎監事

このほかに、82名の評議員のみなさんが、同窓会の運営を支えてくださっています。

努力しているところであります。今回の「同窓会だより」はその一環として発行することになりましたが、何分にも準備不足で皆様にご満足いただけるものにはなっていないと思っております。しかし、年々隆盛になる総会と相まって同窓生間の情報交換の一助として役に立つ様に充実して欲しいと念じております。

高内鶴田 喜道 内田登美子 中村悦民 宮本英彦 越智明彦 中嶋圭二 田嶋次郎 本嶋賢二 瀬口義夫 江上正介 井上文利 山川城義 山崎正信 木下宗信 板橋昭勝 藤橋昭勝 石橋昭勝 野島昭勝 上原公次 千原忠次 富田トミ子 辺春英雄 難波久雄 鹿波久雄 川龍彰 乗富喜久子 江崎鈴子 野崎重信 板橋元昭

【平成10年度教職員の異動】

《退職》

- 西山 和徳 事務長
- 田尻 文雄 保健体育教諭
- 遊田 妙子 養護教諭

《転出》……………(カッコ内は転出先)

- 隈本 豊校 長 (春日高校)
- 平川 早苗 教諭 (八女高校)
- 吉田 充明 教諭 (久留米筑水高校)
- 関村 健二 教諭 (福島高校)
- 中村 雅昭 教諭 (三池工業高校)
- 堤 雅かおり 教諭 (大牟田北高校)
- 野口 典子 教諭 (田主丸養護学校)
- 今村 久子 教諭 (福島高校)
- 岩本 葉美子 学校司書 (福岡工業高校)

《転入》……………(カッコ内は前任校)

- 吉田 寛校 長 (新宮高校)
- 川村 喜一郎 事務長 (北筑後教育事務所)
- 糸瀬 慶二 教諭 (八女工業高校)
- 笠原 直章 教諭 (伝習館高校)
- 加月 美男 教諭 (三浦高校)
- 中野 義典 教諭 (八女高校)
- 野宮 源本 教諭 (久留米高校)
- 宮島 幾子 養護教諭 (福島高校)
- 梶 禎子 企画主査 (明善高校)

着任のご挨拶



福岡県立山門高等学校 校長
吉田 寛

私は、この四月一日に限本豊校長の後任として参りました吉田寛です。

私は、昭和三十八年、校長徳永務先生に本校に採用となり、組担任として一年生から三年生までの持ち上がり五回、すなわち十五年間勤めさせていただきました。

その後、明善高校、大川高校(教頭)、久留米高校(教頭)、黒木高校(校長)、新宮高校(校長)に勤務し、二十年ぶりに本校に二回目の勤めをいたすことになりましたので、今は、

長旅をして帰ってきたような思いです。

私が本校に採用していただいた当時、斉藤敏郎先生をはじめ、諸先生方が、大変困難な状況の中で生徒の教育に打ち込んでおられ、近隣の高校からも一目置かれる存在でした。私もそのような中で教師として育てていただきましたので、私の原点は、この山門高校にあるといえます。

本校は、八十六年の歴史と伝統に輝く学校で、卒業生の数も一万九千

名に迫ろうとしています。現在は、少子化の関係から、三年生七クラス、二年生七クラス、一年生は六クラス、生徒数は、男子三百五十名、女子四百三十六名の七百八十六名です。平成七年度までは、各学年八クラス、生徒数も九百五十名を越えておりましたので、やや寂しさを感じますが、生徒たちは、大変真摯に、勉学に部活動に頑張っております。

私は、この素晴らしい生徒達が、さらに「いきいき、わくわく」する学校創りに努める所存です。同窓会会長の板橋元昭様をはじめ会員の皆様には、諸事にわたりご支援を賜り、心から感謝申し上げますとともに、今後ともいっそうのご理解と温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本校校歌に在りますように、まさしく新緑、緑の映える季節、就任早々に体験いたしました昨年の五月三日の同窓会総会は大変な盛況であり大変感激しました。また、幹事当番の方々への深い配慮と献身的なご協力や機敏な活躍が特に印象に残っています。

離任のご挨拶



福岡県立春日高等学校 校長
隈本 豊

本年四月一日付で、福岡県立春日高等学校に転任を命ぜられてから、はや一か月が過ぎました。山門高校在任中は、板橋同窓会長様をはじめ会員の皆様方から、ひとかたならぬご厚情を賜り、心から感謝申し上げます。

母校の発展に尽力され、定年で退職をなさった矢ヶ部昇幸前校長の後任として、僅か一年間でしたが、勤めさせていただいた期間です。八十六年の歴史と伝統、何よりもすばらしい卒業生の方々を輩出して参りましたこの山門高等学校に勤めることが出来た事を大変光栄に思うと同時に誇りに思っています。

あさみどり、真澄める空に仰ぎ見る雲仙の峰がやかに、若き生徒の夢を呼ぶ……

本校校歌に在りますように、まさしく新緑、緑の映える季節、就任早々に体験いたしました昨年の五月三日の同窓会総会は大変な盛況であり大変感激しました。また、幹事当番の方々への深い配慮と献身的なご協力や機敏な活躍が特に印象に残っています。

母校の教育活動を後援して下さる団体に、通常、父母教師会と同窓会の二つがあります。とりわけ同窓会は母校が存続するかぎり、永久に会員は増え続けていき、母校とは切り離すことのない密接な関係を持つ団体であります。卒業生の皆様の社会における活躍、業績、貢献がそのまま母校の社会的評価を形成します。幸いにして、企業の多くが山門高校の卒業生なら採用したいと、温かい歓迎を受けております。それは、卒業生各位の社会での高い評価のお陰であります。そう言う意味で、この度、同窓会会報を出され、皆様方で同窓会の組織の更なる充実を図り、これまでの輝かしい歴史に新たな伝統を付加して行くこととされる気概に本校教育に携わった者として、深甚の謝意を表しますとともに、短い任のため多々のご迷惑をお掛けしたお詫びと、お別れのご挨拶とさせていただきます。

本校校歌に在りますように、まさしく新緑、緑の映える季節、就任早々に体験いたしました昨年の五月三日の同窓会総会は大変な盛況であり大変感激しました。また、幹事当番の方々への深い配慮と献身的なご協力や機敏な活躍が特に印象に残っています。



平成9年度 卒業生代表から

第50回卒業生
吉廣 みゆき

今年3月、私たちは第50回卒業生として山門高校を巣立ち、進学・就職などそれぞれの道を進むこととなりました。私にとって高校とは、社会に出る一步手前の段階であり、勉強だけでは得られないものがたくさんあると思います。例えばそれは、友人達との出会いではないでしょうか。

卒業式当日、私はこの高校に3年間通うことができ、本当によかったと思いました。つらく苦しかったこともたくさんありましたが、それ以上にすばらしい友人や先生方と出会うことができました。この出会いは、私の一生の宝物になるとともに、これからの長い人生の中で人間関係の大切さを学ぶことができたと思います。

高校を卒業し、自分の道を進み始めている私たちにとって、友人達と会う機会や話す時間が少なくなってきたように感じます。20代、30代、40代となるにつれて、今よりもっと少なくなるでしょう。しかし、私たちは卒業と同時に同窓会に入会しました。これからは同窓会が、友人達と出会うきっかけや場所をつくってくれたいと思います。

その同窓会を守り、発展させるために、今後は各クラスの幹事の人たちと協力し合い、同窓会の先輩方とも交流を深め、また母校の発展のために、少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

《平成9年度卒業生 幹事》

◎評議員

◎3年8組 東原 稔(高田町)

◎3年1組 吉廣みゆき(瀬高町)

◎幹事

◎3年1組 瀬口 雅義(瀬高町)

◎3年2組 原田有希子(瀬高町)

◎3年3組 大淵 貴史(柳川市)

◎3年4組 山下由紀子(瀬高町)

◎3年3組 大城 超(瀬高町)

◎3年4組 松島 由佳(瀬高町)

◎3年4組 古賀 聖英(大川市)

◎3年4組 今村かおり(大川市)

◎3年5組

◎3年5組 豊田 寛(大川市)

◎3年6組 中富 忍(三橋町)

◎3年7組 酒井 良二(柳川市)

◎3年7組 岡 真由美(柳川市)

◎3年7組 友添真理子(三橋町)

◎3年7組 江崎 徹(大和町)

◎3年7組 岡 真由美(柳川市)

過去3年間の現役生の合格者数

| | 平成9年 | 平成8年 | 平成7年 |
|---------|------|------|------|
| 国公立大学 | 33 | 36 | 27 |
| 私立大学 | 289 | 264 | 143 |
| 短期大学 | 78 | 102 | 99 |
| 看護専門学校 | 27 | 37 | 19 |
| 医療系専門学校 | 12 | 16 | 8 |
| その他専門学校 | 44 | 59 | 54 |
| 一般就職 | 3 | 2 | 2 |
| 公務員 | 9 | 11 | 14 |



近年の進路指導について

進路指導主事

大津 二三夫

入試には推薦入試と一般入試の二つがあります。

推薦入試は受験生にとっては「早く進路が決定できる」として大学側にとっては「優秀な生徒を早く確保できる」というメリットがあり、かつては本校からも10名前後の生徒を推薦してまいりました。しかし、ここ数年、短大を中心に易化傾向にあり、全国的にも「わざわざ推薦で受験するより一般で複数合格し、その中から進路を選ぶ」傾向が強まっています。本校でも、昨年度の推薦者数は65名とかつての半数以下で、その内49名の合格を頂きました。

一般入試は一月中旬のセンターテストで幕が落とされます。平成10年度は全国で約55万人が参加し、本校からも三年生の約半数に当たる12名が久留米大学で受験しました。新教育課程でのセンターテスト二年目でしたが、一昨年に比べどの教科も問題が難しく、全国平均が一筆に50点ほど下がりました。更に自己採点后、地歴科で得点修正(同一教科内で平均点の差が20点以上開いた場合実施される)が行われ、受験生はもとより私たち出願の指導をする側も対応に苦慮し、個別出願は例年以上に慎重に行わざるを得ませんでした。

◎昨年度の進路状況について

国立受験生はセンターテストの

結果だけを見ると予想以上の苦戦でした。しかし、生徒たちは粘り強くあきらめずに挑戦し、センターでのハンデイーを個別試験で見事に逆転した生徒も多く、最終的に合格者は長崎大学5名、佐賀大学8名など合計33名と昨年度に引き続き30名を超える大健闘でした。

私立大学は、以前に比べて不況の影響が関東・関西地区を志望する生徒は減っており、福岡を中心とする地元志向が強まっています。福岡大学33名、九州産業大学52名、久留米大学36名等とよく健闘しました。短大は、志願者そのものがここ数年減少を続けており、昨年度は医療系を除けば、ほぼ全入に近くなっています。逆に、資格・実学志向で専門学校を志望するものが若干増えつつあります。

本校は、医療系専門の学校への進学を希望するものが例年20名前後いますが、昨年度も九州医療センター看護専門学校3名合格等の実績を残してまいりました。

就職に関しては、企業就職を希望する者はこの数年若干名ですが、公務員を志望する者は例年15名前後います。パブルが弾けて以来、公務員に合格するのは至難の業となつていますが、昨年度も国家公務員(県職・学校事務)等に合格するなど山門の伝統を引き継いでくれました。

昨年度の同窓会総会から……

同窓生から初の大員誕生!

昨年同窓会総会には、約一千余名が参加。当時運輸大臣の古賀誠衆議院議員の大員就任披露報告会も行われました。

同窓会総会後、記念講演では、アメリカ人タレントとして活躍されたイーデス・ハンソンさんが「新しい女性の生き方」と題して講演。その後古賀誠運輸大臣就任報告会、懇親会が行われました。

同じ学舎から運輸大臣……

多忙中、同窓会総会に参加していただいた古賀誠運輸大臣は、就任披露のあいさつで「昭和31年に入学し思い出いっぱい母校で、山門高校を母校に持ったことを誇りに思います。母校への思いを話してくださいました。」

同窓生の中に、日本の国政を担って頑張っている人がいるということは、母校をより誇らしく思わせてくれます。



【プロフィール】

古賀誠前運輸大臣は、昭和15年瀬高町に生まれ、昭和34年、第11回生として山門高等学校を卒業されました。その後、日本大学商学部を卒業、故鬼丸勝之参議院議員の秘書を経験され、昭和55年の第36回衆議院議員総選挙で初当選。建設政務次官などを歴任し、平成8年の第41回衆議院議員総選挙で6期目の当選後、橋本総理大臣のもと運輸大臣に就任されました。



図書館の一角にブリタニカ国際大百科事典があります。

これは、昭和25年4月から昭和49年3月まで25年間という長年にわたって、山門高校に在職された斉藤敏郎先生が、平成9年2月に逝去なさった時に、素晴らしい教育者でいらっしやった先生のご遺志をつがれて、ご遺族よりご寄贈いただいたものです。

当番学年のみなさん、ごろうさまです!

同窓会総会は毎年5月3日に開かれています。ご存じの方も多いかとは思いますが、これは満40歳になる学年のみなさんが「当番学年」として、約一年かけて準備をしてくださっています。

地元に残っている人たちを中心に約30名の実行委員会が組織され、総会、講演会、懇親会等の企画・運営をされています。「いろいろ大変なことも多い」そうですが、それでもみなさん総会を盛り上げようと頑張っています。



～校舎から～

校内に入ってほとんどの人が驚いたのではないのでしょうか。自分たちが通っていた頃を思い出すと、本当にびっくりするほどの変身ぶりです。

山門高校の校舎は、生徒数が急増した昭和30年末から40年代にかけて主要な部分が建設されたのですが、施設・設備の老朽化が進み、竣工後25年を経過している部分が大規模改造されたものです。平成9年度から本館の工事が始まり、10年に東校舎、11年に西校舎、12年に体育館が行われる予定です。